

悪性胸膜中皮腫

【集学的治療の実施状況】

○呼吸器内科

胸膜という肺を覆っている膜にできる病気であり、診断が難しい疾患です。呼吸器内科では局所麻酔下胸腔鏡を、呼吸器外科では全身麻酔下胸腔鏡を施行して診断します。さらに、CT・MRI・シンチグラフィーなどを用いた全身検索で病期を診断し、治療方針を決定しています。

治療については化学療法を基本とし、必要に応じて外科治療や放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

○放射線科

画像診断と放射線治療を行います。

○栄養サポートチーム（NST）

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

○緩和ケアチーム

医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》

NCCN 悪性胸膜中皮腫ガイドライン

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック（日本緩和医療学会）